

老人と障害者の自立のための

38th 国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2011

会 期：2011（平成23）年10月5日(水)～7日(金)
会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）
出展社数：約500社・団体（日本442社・団体、海外58社）※見込み
開場時間：午前10時～午後5時
入 場 料：無料（登録制：当日または事前）
主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

【開催内容】（予定）

- ①福祉機器約20,000点を総合展示
 - ②国際シンポジウム：「英国のキャメロン改革と社会保障」（6日）を開催。詳細を別掲。
 - ③ふくしのスキルアップ講座：院内感染予防、高齢者の住宅、社会福祉法人の会計など保健・福祉・介護をテーマに連日開催。詳細を別掲。
 - ④障害児のための「子ども広場」：子ども用福祉機器の展示に加え、子ども用の福祉機器相談・療育相談も実施。
 - ⑤ふくしの相談コーナー：福祉機器・自具などの相談コーナーを設置。
 - ⑥福祉機器開発最前線：研究・開発中の機器や新製品を紹介。
 - ⑦あるテク講座：携帯電話やタブレットPCなど身近にあるテクノロジーの福祉的利用方法について解説・実演。
 - ⑧高齢者の生活支援用品コーナー：高齢者の日々の生活を便利にするグッズや工夫がなされた製品を紹介。
 - ⑨ふくしの防災・避難用品コーナー：福祉施設向けの防災用品や被災地で役立つ福祉機器を紹介。
- その他、多彩なプログラムを実施。

※ プログラムは変更されることがあります。

最新情報と詳細はH.C.R. Web (<http://www.hcr.or.jp>) サイトでご確認ください。

【H.C.R. 2011 ふくしのスキルアップ講座&国際シンポジウムのご案内】

I. ふくしのスキルアップ講座

◆プログラム紹介(予定)

1. 福祉施設役職員講座

(1)新しい社会福祉法人会計基準 概要と変更点

現在、社会福祉法人における会計処理は、指定介護老人福祉施設の指針や就労支援事業の基準など、同一法人の中で様々なルールが併存しているため事務処理が煩雑であるとの指摘がされていました。そのため厚生労働省では見直しの検討を進めてきましたが、7月27日、社会福祉法人会計基準の制定について都道府県知事等に通知し、来年4月1日から適用することとしました。

本講座では、新たな社会福祉法人会計基準の概要と変更点を解説いたします。

(注1：共通資料)

◇会場：会議棟6階 605～608 会議室 定員 250 名 事前申込あり。

◇日時：10月5日(水) 10:30～12:30

(2) 福祉施設の現場で開発された利用者サービスの工夫～老人ホームの創意・工夫事例の発表～

介護・障害者施設の現場では、スタッフが日々の利用者への援助・支援をとおしての創意・工夫をもって、さまざまな福祉サービスの改善・質的向上がはかられています。こうした創意・工夫は、全国の福祉施設で活かせるアイデアとノウハウです。

本講座では、創意・工夫の情報を共有することで、福祉サービスの質の向上をはかることを目的として、高齢者施設の事例を紹介します。(注1：共通資料)

◇発表事例

①事故再発防止について

②認知症予防と生活行為への波及効果(予定)

◇会場：会議棟6階 605～608 会議室 定員 250 名 事前申込あり。

◇日時：10月5日(水) 13:30～15:00

(3) 災害と福祉施設～福祉施設は災害にどう備えるのか～

東日本大震災は東北3県を中心に未曾有の被害を与えました。報道でもあったように福祉施設も、この災害により大きな被害を受けたほか、被災後もスタッフや物資の確保、利用者の健康管理など想定以上の厳しい現実と直面しました。

こうしたなか、福祉施設のスタッフから被災地での活動体験や被災施設の状況についてのレポートを聞き、今後、災害に対しどんな備えをするべきかを考えます。(注1：共通資料)

◇会場：東展示棟1ホール内特設会場A 定員 150 名 自由参加。

◇日時：10月5日(水) 13:00～14:30

(4) 福祉施設の農業の取り組み～地域ブランドの形成をめざして～

障害者の仕事づくり、高齢者の健康づくりなどの観点から、社会福祉施設等が障害者、高齢者たちによる農業や酪農、ワインづくりなどに取り組む事例が増えています。事業として成立させるため経営的な戦略を実践しているケース、さらには地域の経済を活性化させ、その地域のブランド品として高く評価されているケースもあります。

本講座では、成功している農業の取り組み事例の紹介に加えて、ブランド力をつける秘訣についても議論します。(注1：共通資料)

◇発表事例

①ソーシャルファームとしてまちの活性化を図る

②銀座のミツバチプロジェクトの目指す銀座里山計画

◇会場：会議棟6階 605～608 会議室 定員 250 名 事前申込あり。

◇日時：10月7日(金) 10:30～12:30

(5) 避難所の生活改善を考える～簡単、便利、ダンボールで家具をつくろう～

避難所では日常的生活ができず、被災者にとって大きなストレスになっています。例えば、避難所の状況をよく見ると、生活は床の上が中心で食事や書き物などの時も床の上でおこなっていることが多いことが判明いたしました。しかし、避難所に一般的なテーブルやいすを置くスペースはありません。

本講座では避難所の生活改善のひとつの事例として、机やいすなどの家具を軽くて丈夫でスペースをとらない強化ダンボールでつくった取組みを報告いたします。(注1：共通資料)

◇会場：東展示棟1ホール内特設会場A 定員150名 自由参加。

◇日時：10月7日(金) 10:30～12:00

(6) 福祉施設における感染症の知識と対応～日常生活における感染症対策と被災地における感染症対策の実態～

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

また、東日本大震災では多くの福祉施設が被災しました。避難所では多くの人々がひとつの空間で暮らすなど、通常とは異なる環境のもとでの生活をよぎなくされています。こうした状況下では感染症の脅威が高まるため、関係者はその対応に追われています。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学ぶとともに、被災地における感染症対策の事例を紹介します。(注1：共通資料)

◇会場：会議棟6階605～608会議室 定員250名 事前申込あり。

◇日時：10月7日(金) 13:30～15:30

2. 利用者・家族講座

(1) 変わる高齢者住宅制度 手話

現在、特別養護老人ホームでは多くの待機者がかかえ、とくに都市部では入居がとても困難になっています。そのため有料老人ホームや高齢者専用賃貸住宅など高齢者を対象とする住宅や入居施設の種類が増え、さまざまな形態がみられるようになりました。

そうしたなか、これまで高齢者専用賃貸住宅などに変わり、サービス付き高齢者住宅制度の創設等を内容とした、高齢者住まい法の改正法が4月28日に公布され、交付日から6か月以内に施行されます。

本講座では変わる高齢者住宅制度の改正ポイントと高齢者住宅を選ぶ時のポイントを解説いたします。

◇会場：会議棟6階605～608会議室 定員250名 事前申込あり。(注1：共通資料)

◇日時：10月6日(木) 10:30～12:00

(2) 腰痛を予防する介護の方法 基本編 手話

腰痛は介護する方にとって重い課題です。ある調査では介護職の約8割の方が腰痛を経験しているとしています。この福祉機器展を開催するきっかけも介護する方の腰痛予防対策を考えるためでした。

介護時において腰痛にならないようにする工夫はいくつかあります。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方(技術)の習得などです。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

この講座では腰痛を予防する介護技術の基本を学びます。(注1：共通資料)

◇会場：東展示棟1ホール内特設会場A 定員150名 自由参加。

◇日時：10月6日(木) 13:00～14:30

(3) 高齢者世帯向けの手軽な日々の食事～市販の弁当・惣菜も工夫次第でこう変わる～ 手話

高齢者夫婦だけやひとり暮らしの世帯では、食材が残る、張り合いがない、つくるのが大変などの理由で毎日の食事をつくる世帯が減っています。

そこでコンビニの弁当やスーパーの食材をもとにしつつ、ひと工夫加えることによって栄養バランスがとれた食事にし、健康的な食生活をおくることを学びます。

◇会場：東展示棟1ホール内特設会場A 定員150名(各回とも) 自由参加。

◇日時：10月5日(水)11:00～12:00、6日(木)11:00～12:00、7日(金)13:00～14:00

(4)はじめての福祉機器選び方・使い方セミナー 手話

5日(水)住宅改修編、6日(木)基本動作編、7日(金)自立支援編 (注2：副読本)

※詳しくはHCR Web サイト(www.hcr.or.jp)をご覧ください。

◇会場：東展示棟6ホール内特設会場G 定員200名(各回とも) 自由参加。

◆参加

事前申込については、HCR Web サイト(www.hcr.or.jp)で順次ご案内いたします。

注1：講座(はじめての福祉機器選び方・使い方、高齢者向けの手軽な日々の食事 を除く)の資料は、共通資料で1,000円です。

注2：はじめての福祉機器 選び方・使い方講座の副読本は、開催日ごとに「住宅改修編」「基本動作編」「自立支援編」の3種類を発刊しています。各100円です。

注3：スキルアップ講座の参加自体は無料です。

注4：題名の横に手話マークのついたプログラムは、手話通訳をおこないます。

II. 国際シンポジウム「英国のキャメロン改革と社会保障制度

～未来に向けた財政の削減～英国政府の財政、コミュニティ、ケア政策～ 手話

先進各国は景気の下支えのため財政支出を大幅に増やしてきましたが、ここにきて一部の西欧諸国では財政を健全化へと舵を切ろうと図り、国民の間に議論を呼んでいます。

わが国でも社会保障と税の抜本改革の検討会がおこなわれるなど財政再建の議論が本格化するなか、HCR2011ではオックスフォード大学高齢者研究所からジョージ・リースン氏を招き、財政再建に取り組んでいる英国のキャメロン改革、特に改革が社会保障制度に与える影響や課題等を考えます。

◇会場：会議棟6階605～608会議室 定員250名

※事前申込あり。定員になりしだい締め切らせていただきます。

◇日時：10月6日(木)13:00～16:00

◇講師：ジョージ・W・リースン氏 オックスフォード大学高齢者研究所副所長

◇参加費：1,000円

講演要旨(予定)

英国では、保守党と自由民主党の連立による連立政権＝キャメロン内閣の成立と未曾有の経済危機により、イデオロギーの観点と英国の世界的な地位における危機の観点という両面から、政府の政策転換に向けた条件は整った。

まずイデオロギー的にみれば、連立政権がこれまでの労働党政権の長期にわたる政策が招いた結末、すなわち福祉国家の肥大化による経済の混迷に取り組むことは目にみえていた。さらに世界的(グローバル)な観点から、世界経済における英国の存在感は大きく減退していた。

加えて、世界の多くの国々と同じように、高齢化の進展は政策的にも予算的にも大きな課題を投げかけていた。しかもこうした課題は、今後10年間で解決に向かうどころか、さらに深刻化するとみられている。

新政権の成立以来、成長やコミュニティの責任、ケアに関する計画が策定された。

本シンポジウムでは、英国における高齢化の進行という背景を念頭に置きながら、政府の成長政策について触れ、その「大きな社会」実現に向けた計画の要点を論じる。合わせて、一例として最近の「ケアとサポートの財源に関する委員会」による提言を検討する。

※シンポジウムは、手話通訳をおこないます。

※シンポジウムの参加受付は、HCR Web サイト(www.hcr.or.jp)でご案内しています。

☆注：このプレスリリースの内容は8月30日時点での予定です。内容や日程は予告なく変更する可能性がありますので、ご来場の際は最新情報をご確認ください。

H.C.R. 2011 事務局
(財)保健福祉広報協会
〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F
TEL. 03-3580-3052
FAX. 03-5512-9798
[http : //www.hcr.or.jp](http://www.hcr.or.jp)